

狩野博士は臨床、研究、教育を経験しまた公的活動に携わっている。東京大学医学部を1999年に卒業、聖路加国際病院で感染症内科を含む各科臨床医療を経験した。その後東京大学大学院医学系研究科（老年病学）にて学位を取得、ナノ医療を開発する医工連携プロジェクトに携わり、また研究医減少傾向に対応する東京大学 MD 研究者育成プログラム設立時の専任教員となった。2012年から岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授、また2018年には自ら設立に携わった文理統合型の大学院ヘルスシステム統合科学研究科の教授に任命され、難治疾患治療法の開発を続けている。また2017年から全学の副理事として国連SDGs（持続可能な開発目標）達成の組織的取り組みを推進し、日本政府SDGsアワード受賞に至った。並行して、2010年以降日本学術会議若手アカデミー設置に関わり、2011年から2016年まで副代表を務めた。また2010年よりグローバルヤングアカデミー(the GYA)の会員、2014年は執行委員に選出された。2019年から外務大臣次席科学技術顧問を外務省より委嘱されている。そのほか文部科学省、内閣府総合科学技術イノベーション会議、JST等、政府関連組織での役割を経験してきている。